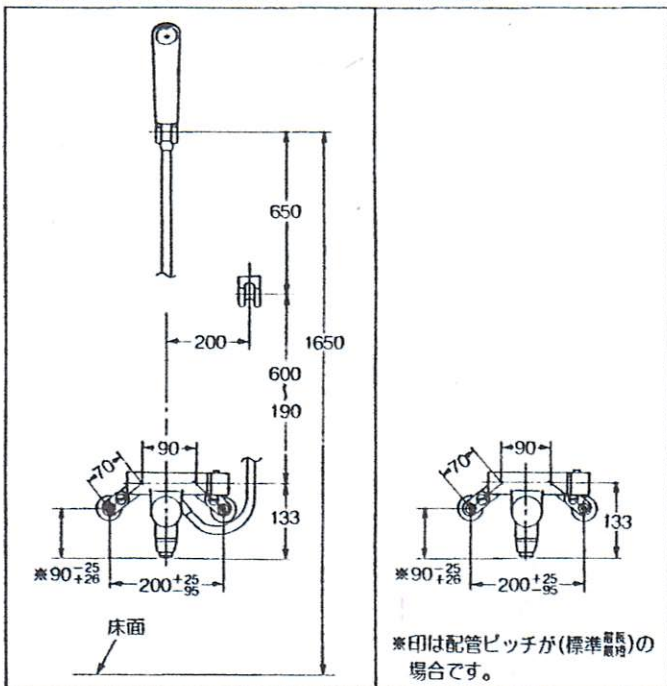
KSERIES サーモスタットシャワー金具

Designed by Masayuki Kurokawa

製品の機能が十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正し

完　成　図

TM690C・TM690C1　　TM690A

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

使　用　条　件

1．使用水圧

(1)ガス瞬間湯沸器と組合せる場合

給水圧力 { 最低必要水圧……(下表参照)
最高水圧…………0.6MPa

器具入口部における最低必要水圧(MPa)

※8L吐水の場合（ソフトは9L）

給湯機の種類		号数	最低必要水圧		
			普通シャワー	マッサージ	ソフト
従来タイプ		8号	—	—	—
		10号	—	—	—
		12号	A+0.12	A+0.15	A+0.16
比例制御タイプ	カスタム	10号	—	—	—
		16号	0.08	0.09	0.1
		20号	0.08	0.09	0.11
	トリコン (トリコン・コンタクト・アヴティー)	16号	0.07	0.08	0.1
		20号	0.08	0.09	0.1
		24号	0.06	0.07	0.09
		アクティー31	0.06	0.07	0.09
		32号	0.06	0.07	0.08
	コマンド	16号	0.06	0.07	0.09
		24号	0.06	0.07	0.09

注）TOTOカスタムシリーズでは、湯沸器の温度を60℃にした場合、表中の数値より0.02MPa多く必要になります。
表中のAは湯沸器の最低作動水圧を示します。
(比例制御タイプにはこの数値が含まれています。)

〈設定条件〉
- 切換ハンドルは全開
- 湯沸器温度調節は最高温に設定
- シャワー吐水温度：42℃
- 給湯配管長さ：5m

a）従来タイプの場合
- 湯沸器が着火する下限の圧力とする。
- 水温の高い（25℃）夏季に着火させることを想定。

b）比例制御タイプの場合
- 水温の低い(5℃)冬季に約8L/min(ソフトシャワーは9L/min)の吐水流量を確保するのに必要な圧力とする。

(2)貯湯式温水器と組合せる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力…0.05MPa
最高圧力………0.6MPa

給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。

給水圧力が0.6MPaを超える場合、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。

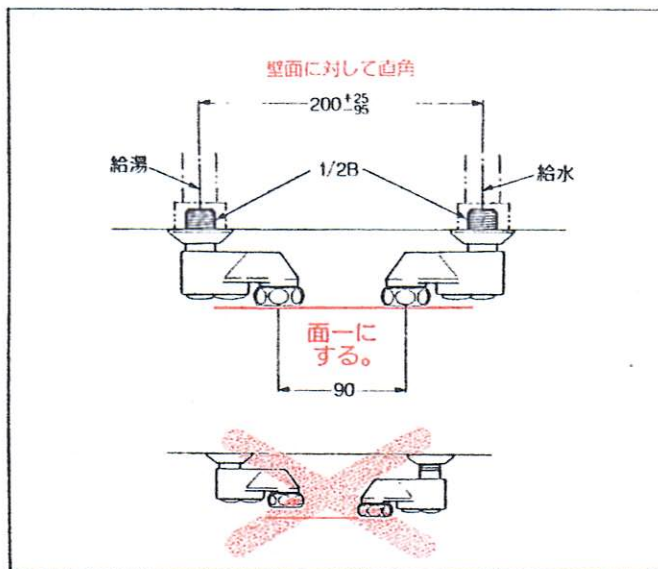
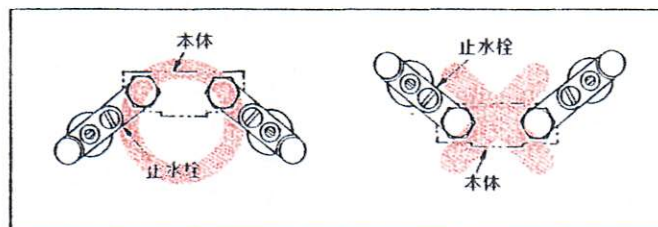
2．給湯温度は使用する温度より10℃以上高くしてください。
ただし、約70℃以上の温水は出ないようにしています。

3．給湯に蒸気を使用しないでください。

4．湯・水を逆配管しないでください。
なお、給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

器具の取付け

1．給水管内の清掃
器具を取付ける前に必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

2．止水栓の取付け

※寒冷地用の場合、止水栓の取付位置が本体よりも上になると水抜きができなくなります。

3．シャワーホースの取付け(シャワー金具の場合)
- 本体を止水栓に接続する前にシャワーホースを本体に取付けてください。
- シャワーホースは止水栓の下から取り出してください。寒冷地用の場合は止水栓の上から取り出すと水抜きができなくなります。

温　度　調　節

工場で温度調節をしていますが取付現場の圧力状況など
って、目盛どおりの吐水温度にならない場合があります
その場合は次の要領で調節してください。
調節する前に次のことを確かめてください。
(a)止水栓は全開になっていること。
(b)ストレーナのごみづまりはないこと。
(c)十分な温度（使用する温度より10℃以上）の湯がきて
こと。

●調節要領
(1)スパウトより吐水させて温度調節ハンドルの目盛に
なく40℃の湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回
(高温側へ回すときは安全ボタンを押してください。
(2)その位置で温度調節ハンドルが回らないように注意
ハンドルを抜きとってください。
なお、ストッパーが外れたときは分解と点検の項に
位置に正しくはめてください。
(3)温度調節ハンドルの“40”の文字を赤色ポイントに合
てハンドルをはめてください。このとき、温度調節
ドルが本体に当たるまで確実に押し込んでください

寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを
ております。凍結のおそれのある時期に施工された場合
水抜栓の操作とあわせて付属の水抜方法ラベルの要領で
きをしておいてください。またお客様にも水抜方法をご
ください。

〈水抜手順〉
(1)切換ハンドルをスパウト側に回す。
(2)本体の水抜コックを全て開く。
(3)温度調節ハンドルを“H”に合わせ、スパウト及び水抜
クから水が出なくなってから、ハンドルを“C”側いっ
に回す。
●シャワー金具の場合はさらに次の操作をしてくださ
(4)切換ハンドルをシャワー側に回す。
(5)ホース根元の水抜コックを開く。
(6)ホース内の水を抜き、シャワーヘッドを振って中の水
いてから床に置く。

ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水量が少なくなったり水又は熱
かでなくなるなど機能が十分に発揮されなくなります。
取付後は、必ずストレーナを掃除してください。
また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指
います。
注）カラー塗装品、ブロンズめっき品の場合は表面が傷
やすいので必ず付属の開閉工具をご使用ください。

モスタットシャワー金具・混合栓施工説明書

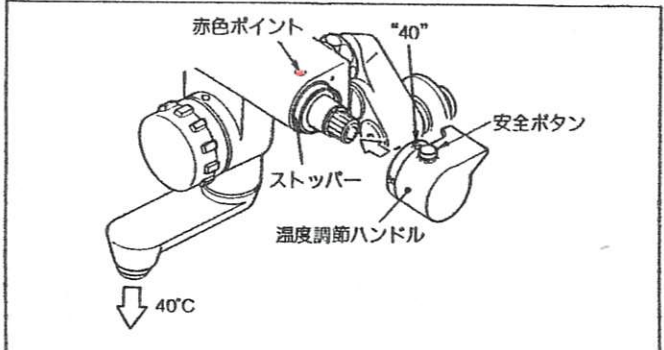
十分発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取付けてください。

温度調節

工場で温度調節をしていますが取付現場の圧力状況などによって、目盛どおりの吐水温度にならない場合があります。
その場合は次の要領で調節してください。
調節する前に次のことを確かめてください。

(a)止水栓は全開になっていること。
(b)ストレーナのごみづまりはないこと。
(c)十分な温度（使用する温度より10℃以上）の湯がきていること。

●調節要領

(1)スパウトより吐水させて温度調節ハンドルの目盛に関係なく40℃の湯が出る位置まで温度調節ハンドルを回す。（高温側へ回すときは安全ボタンを押してください。）
(2)その位置で温度調節ハンドルが回らないように注意してハンドルを抜きとってください。
なお、ストッパーが外れたときは分解と点検の項に示す位置に正しくはめてください。
(3)温度調節ハンドルの"40"の文字を赤色ポイントに合わせてハンドルをはめてください。このとき、温度調節ハンドルが本体に当たるまで確実に押し込んでください。

寒冷地用の水抜方法

寒冷地用の場合は器具内の水を抜くため、水抜コックを設けております。凍結のおそれのある時期に施工された場合は、水抜栓の操作とあわせて付属の水抜方法ラベルの要領で水抜きをしておいてください。またお客様にも水抜方法をご指導ください。

〈水抜手順〉

(1)切換ハンドルをスパウト側に回す。
(2)本体の水抜コックを全て開く。
(3)温度調節ハンドルを"H"に合わせ、スパウト及び水抜コックから水が出なくなってから、ハンドルを"C"側いっぱいに回す。

●シャワー金具の場合はさらに次の操作をしてください。

(4)切換ハンドルをシャワー側に回す。
(5)ホース根元の水抜コックを開く。
(6)ホース内の水を抜き、シャワーヘッドを振って中の水を抜いてから床に置く。

ストレーナの掃除

ストレーナがつまると吐水量が少なくなったり水又は熱湯しかでなくなるなど機能が十分に発揮されなくなります。器具取付後は、必ずストレーナを掃除してください。
また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指導願います。

注）カラー塗装品、ブロンズめっき品の場合は表面が傷つきやすいので必ず付属の開閉工具をご使用ください。

お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご説明ください。

1．水栓の表面や樹脂部を傷つける以下のものは絶対に使用しないでください。
- TOTO水あかクリーナー以外の酸性洗剤、塩素系漂白剤
- シンナー、ベンジンなどの溶剤
- TOTO水あかクリーナー以外のクレンザー、磨き粉など粗い粒子を含んだ洗剤
- ナイロンたわし、ブラシなど

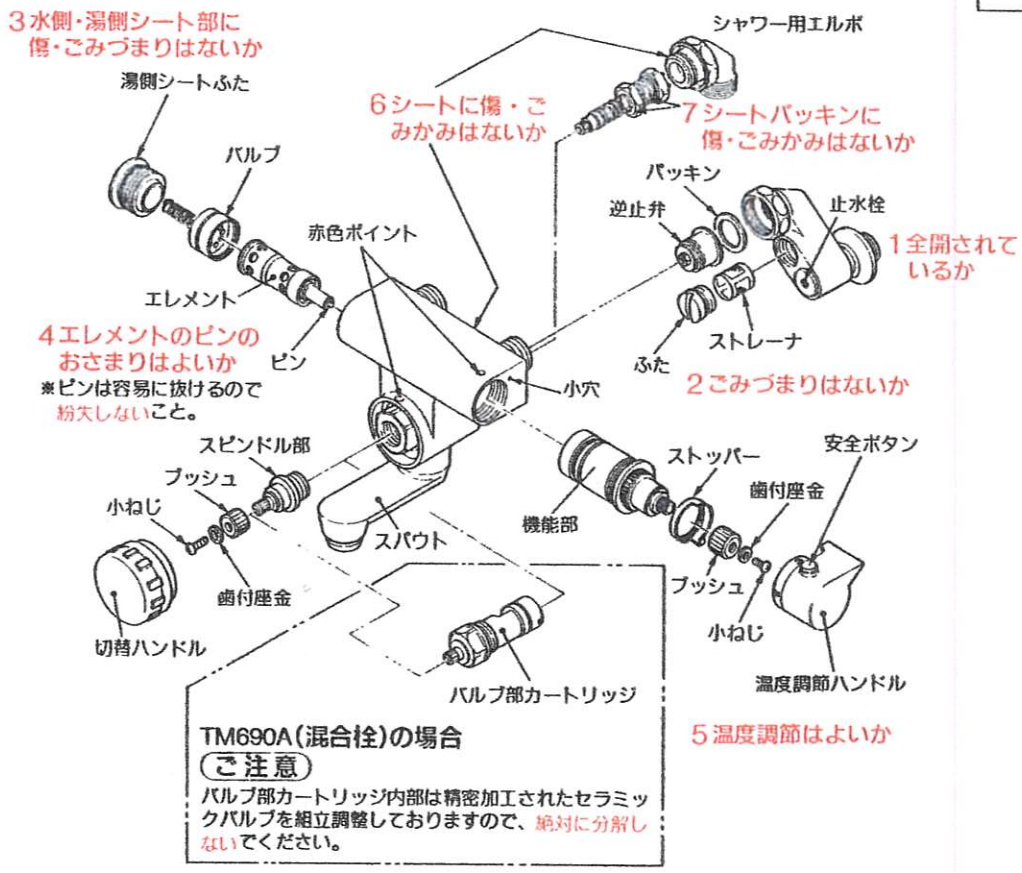
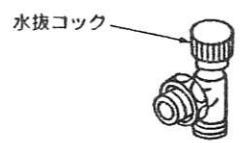
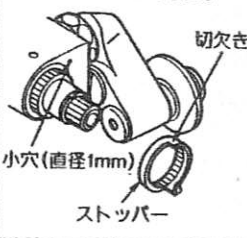
もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いしてください。

2．水栓の表面や樹脂部に付着した水あかなどの汚れ落としにTOTO水あかクリーナーのご使用をお勧めします。
TOTO水あかクリーナーは水栓に傷をつけずに汚れを効果的に除去します。
お求めはお近くのTOTOショールームもしくはTOTOパーツセンターにお尋ねください。

3．軽い汚れの場合は水またはぬるま湯に浸した布をよく絞って、汚れをふき取ってください。ひどい汚れの場合は、適量にうすめた食器用中性洗剤を含ませた布で汚れをふき取った後、水洗いし、からぶきしてください。

分解と点検

取付後、万一故障などで分解するときは、次の要領で行ってください。

現　　象	点検個所
吐水量が少ない。	1・2
高温しか出ない。	1・2・3・4・5
低温しか出ない。	1・2・3・5
目盛どおりの湯が出ない。	1・2・3・4・5
水がとまらない。	6・7

※付属の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。
手渡しできない場合は、工事完了後ハンドルなどに吊り下げておいてくださ